

# 令和5年度 千歳市市民評価会議議事録

会議名	市民評価会議（第8回）		
日時	令和6年2月15日（木）14：00～16：00	場所	本庁舎 庁議室
出席者	委員：5名、アドバイザー：1名、事務局：3名		

会議概要	今年度実施した市民行政アセスの評価結果に対する各担当の対応状況について、委員に報告を行い、意見をうかがった。
------	--

## ヒアリング・評価内容

### 議題（1）評価結果に対する各担当の対応状況について

#### 施策1 地域資源を生かしたツーリズムの創出、推進

##### 【アドバイザー】

①の意見において、「持続可能な観光資源、ツーリズムの創出を目指していただきたい」という風に書いているが、対応状況のところでは「持続可能性」のことは一切触れられていない。

～確認事項に対する担当課からの回答～

委員からの意見を踏まえ、①について、「持続可能性」を追加した文章に修正する。

#### 施策2 スポーツ施設の充実、活用

##### 【委員A】

対応状況の②がこちらの趣旨とずれていないか。利用する施設が良いと思ってきている人の意見を抽出していることから、そうではない悪い方の意見も取り入れていただきたいといった趣旨のコメントであったと記憶している。

##### 【事務局】

例示していただいている、「満足していない数値を指標とする」といったことも担当課に検討してもらったところではあるが、それを行うとなった場合に、修繕の優先度や予算の兼ね合い等もあり、指標を達成することが難しいということで、今回の指標の見直しについては、「普通」を外し、『とても良い』、『良い』と回答した人の割合」としたと聞いている。

##### 【委員B】

担当課からは、利用満足度のアンケートの実施方法を変えるような話はあったか。

##### 【事務局】

特に聞いていない。

##### 【委員C】

そもそも利用満足度を聞いて、「とても良い」と「良い」と回答した人の意見を聞くということは現状維持であり、そこから修繕の必要性は見えてこない。満足している人の中で評価の良いところだけを抽出するという文章に読めてしまう。

##### 【アドバイザー】

意見の②と③は連動性をもって展開できるように書いたと思う。修繕につなげていくのであれば、良い部分だけを聞いていても、結局は吸い上げができない。②で悪い部分も聞いておいて、

③の中で利用状況等を考えて修繕を適切に行っていきますよという流れになればいいので、そこは改めて説明をいただいた方がよい。

**【事務局】**

このアンケートは、施設をどのような形で皆さんに利用してもらうのがよいか、皆さんが利用してどのように思っているかということを確認するものとなっている。「とても良い」、「良い」という意見があれば、当然、「悪い」という意見もあって、それら全てを集計している。「悪い」の意見やコメントについては、受け流しているわけではなく、それらを踏まえながら、担当課としてはどういうところを直していくかということを考えている。

しかしながら、アンケートの内容としては、あくまでも施設を利用するにあたってどうですかと聞いているだけであり、悪いところを探しているわけではなく、また、良いところを探しているわけでもない。担当課としてはあくまでも施設に対する評価がどうなっているのかという調査であり、評価を見るにあたっては当然、良いのか、悪いのかというところの割合を確認する必要があると、それを指標にしているところである。

また、体育施設については、ほとんどが指定管理者による管理としていることから、事業者と連携してこのアンケート調査を実施しており、事業者としては、良いところよりも悪いところを注視しており、その意見を参考に改善していくという作業も内部で行われている。

文面だけを見ると、そこまで読み込めないということもあるが、実態としてはそうなっているということも補足させていただく。

**【アドバイザー】**

単純に悪い部分を減らしていくためにどのような取組をしているのかという、行政の動きが見えれば市民の皆さんは頑張っているなど評価できると思うが、いい部分だけを取り上げてしまうとあぐらかいているのではという風に見られてしまう。悪い部分を真摯に受け止めて分析し、それに対する対応が書かれていれば読み物としては納得できる。

**【委員C】**

評価委員も含め、市民の皆さんに伝わるように、文章を精査してもらいたい。

**【アドバイザー】**

例えば、①の最後の文章では、「スポーツ振興と連動した施策の展開を行ってほしい」という、最後の文章が一番の望みであり、その前の文章には方法について書かれている。そうすると、回答としては、相手が何を求めているのかということに対して回答していかなければならないが、①については、「連動」という言葉が一つも使われていない回答になっている。「スポーツ振興と連動した対応を検討する」という風に締め括られていれば良いかと思うが、「連動」という言葉がないので、やっているのかやっていないのかわからない状況になってしまう。

相手が何を望んでいるのか、回答してほしいのかというところを踏まえて回答していただくようにすると、より良くなると思う。

**【事務局】**

担当課と調整させていただく。

**【委員B】**

「今年度」という書き方は、令和〇年度といった数字で記載した方がよい。

～確認事項に対する担当課からの回答～

委員からの意見を踏まえ、①について、「スポーツ振興と連動した対応を検討する」に修正する。

②について、「「スポーツ施設に関する利用満足度」で「満足していない」と回答があったものについては、内容や状況を確認するなど、施設の適正管理を行う際の参考としている。」という文章を追加する。

③について、「今年度」を「令和5年度」に修正する。

### 施策3 障がいのある人もない人も支え合う共生社会づくりの推進

－意見なし－

### 施策4 障がいのある人が安心して暮らせる地域での支援体制づくりの推進

#### 【委員D】

③と④が意見と対応状況がかみ合っていないように感じる。

③は転入者などの情報をつかみにくい方、そういう人たちに対してどのように適切に情報提供するのかという意見に対して、コミュニケーションの手段というような回答になっている。

#### 【委員C】

キーワードを受けて書いていけば、考えていることがこちらに伝わってくると思うが、それが抜けてしまっている。

#### 【アドバイザー】

この施策自体、守備範囲が広く、対応状況に記載されている聞こえない方々に対するコミュニケーション支援について、条例を作りながら進めていきたいと思いますということは、全国的にも進められていることなので、そのことを踏まえて書かれたのではないかと思うが、市民評価会議の中では、転入者が多い地域柄を踏まえ、障がいの特性に応じて、聞こえない人たちに対する情報支援だけではなくものを検討する必要があるという趣旨であったと思う。コミュニケーション条例だけではなく、広い部分で取り組まれているとは思っているので、そこも確認していただけたら良いと思う。

また、④については、災害の時の具体的な対応が書かれていない。速やかにその対応を調整してほしいというような言い方をしているが、自立支援協議会の話題が急に出てきたりなど、災害ということに関して一切触れられてない状況となっているので、取組を具体的に書かれた方が良いのかなと思う。当日の質疑の中でも、取り組んでいる内容を話されていたと思うので、それがちゃんと書かれていれば良いと思う。

#### 【事務局】

今回の回答には間に合わなかったが、担当課からは災害時の他課との調整について、「福祉避難所のあり方に関する意見交換会」を開催する予定があるということを知っており、そういったことに触れるような回答に修正できるように担当課と調整したい。

#### 【事務局】

意見の③の「情報提供ツールの獲得」とはどのような内容をイメージされていたか。

#### 【アドバイザー】

市は、情報提供の仕方というと、ホームページの充実などによって、情報の一元化をしていると思うが、障がいがある方は、障がいの特性に応じて、ホームページにアクセスできないというような状況もあり、高齢者も同様である。

また、市役所の窓口に来て、漢字が読めない等の理由により、どこに行けば良いかわからず、目的の窓口につながらないといったこともあるため、「特性に合わせた」という記載にしており、窓口ではタブレットのようなツールを用いた説明をする必要が出てくるかもしれない。

#### 【事務局】

障がいがある方のことだけではないというイメージなのか。

#### 【アドバイザー】

前回会議の記録を見ると、委員Bからは、高齢の方などインターネットやSNSが苦手な方にも広くお知らせできるような方法について、工夫していかなければならないというような意見があり、障がいのあるとかないかということではなく、多様なツールを用いていくということが必要だということである。

**【委員D】**

その一環の中で、③の回答にあるコミュニケーションの手段というのが重要だと思う。障がいがあると、本人から伝えられないという状況もあると思う。適切な言葉や文字を使って伝えられないからこそ、障がいのある方が伝えられるようなツールやコミュニケーション手段をここで進めていきますよというところに繋がっていくと個人的には納得がいく。

**【委員B】**

おそらく、コミュニケーション条例ができれば、その中に課題に対するサービス方法の提供の仕方など、そういったものが出てくるのではないかと。それであれば、挙げられた課題についても条例の中で規定していけば、全庁的に仕組みは変わるかもしれない。

**【事務局】**

担当課としては、おそらく具体的に取り組める内容がこの意見に対してはなかったもので、委員がおっしゃられたような意図も含めて、今後、コミュニケーション条例については、2年後くらいまでには整備するという方針になっていることから、意図して回答に入れ込んだのではないかと考えているが、③の意見に対する回答に合っていないということであれば文言の整理が必要である。

**【アドバイザー】**

コミュニケーション条例がいわゆる手話条例、手話言語条例のように聞こえない方々に対して情報を保証するという狭い部分のコミュニケーション条例であれば、今回の意見に対する回答としては相違することになると思う。

一方で、他の自治体では手話基本条例や手話言語条例のように謳っているのに対し、千歳市はコミュニケーション条例と謳っているのが、範囲が広い条例なのかもしれない。

そういうことであれば、特性に合わせた情報提供の仕方を踏まえた広範囲に及ぶ条例を整備することが書かれていけば、評価できると思うので、中身を確認していただいた方がよい。

**【事務局】**

新年度から専門委員会を立ち上げて、中身はこれから検討するものと聞いており、現段階では具体的には決まっていないと思われる。

ただ、担当課としては、そういった広い範囲のものを入れ込みたいと考えていると思われる。

**【委員C】**

条例を策定してそれをベースに進めていくというような書き方ではなく、条例の策定に向けて反映できるように努めるというような書きの方が良いのではないかと。

～確認事項に対する担当課からの回答～

委員からの意見を踏まえ、③について、「本市では、窓口対応や各種行事、印刷物等における合理的配慮の提供のほか、情報・意思疎通支援用具の給付などにより、障がいのある人の情報取得を支援している。さらに、障がい特性に応じたコミュニケーション手段の理解や利用の促進を図るため、現在、「(仮称)千歳市コミュニケーション条例」の制定を目指し、「千歳市障がい者地域自立支援協議会」の中に専門部会を立ち上げ、障がいのある人や意思疎通に配慮が必要な人との意見交換を重ねるとともに、障がい特性に応じた情報提供やツールの獲得など、条例に基づく具体的な施策展開に向けて調査研究を進めている。」という文章に修正する。

④について、「災害時における他課との調整については、現在、福祉部門と危機管理部門において、意見交換会を開催し、福祉避難所の在り方など、災害時における避難行動支援や要配慮者支援について検討を進めている。」という文章を追加する。

**施策5 いじめ・不登校等の対策の推進**

**【アドバイザー】**

②の対応状況について、高校生を先に持ってこられると、進学していない子どもはどうするの

かとなってしまいますので、中学卒業後も支援している、なお、高校に進学した際には高校で支援しているという風にかかれていてと良いかもしれない。

**【事務局】**

記載の順番を変えるような形で調整する。

**【委員C】**

④について、第三者機関に直接通報できるかということを知っていたのだが、ないということであろうか。

**【アドバイザー】**

当日のやり取りの中でも明確に公益通報窓口はないという話であり、ないものをいきなり作るということにはならないと思うので、現状あるものを書いているのではないか。

いじめがあっても学校が黙認していた、教育委員会に通報があったものの何もしていないなど、これらのような事態が起きないように、第三者の委員会などを設ける必要があるというような趣旨で意見を書いたということは担当課にお知らせいただきたい。

対応状況については、設置は行っていないが、公的機関の相談窓口がありますというようなことだけを書いていただければよいと考える。

～確認事項に対する担当課からの回答～

委員からの意見を踏まえ、

②について、記載の順番を変える内容に修正する。

④について、市において、いじめの重大事態に係る調査を行う第三者による附属機関があることから、「いじめの悩みなどの通報・相談は、学校だけではなく市教育委員会においても受け付けておりますが、ほかにも北海道教育委員会のお悩みポストや子ども相談支援センター、文部科学省の24時間子供SOSダイヤル、法務省の子どもの人権110番、北海道警察の少年相談110番等の相談窓口で相談を受け付けております。」という文章に修正する。

## 施策6 消防体制の充実強化

**【委員B】**

指標は見直しされたということでよいか。

**【事務局】**

従来の指標は全体の予算額に対する決算額に基づいて算定している指標であったが、見直し後の指標では、事業の達成に向けて実施すべき65の工程について、各年度で実施しなければいけない工程を計画どおりに完了しているかどうかによって評価することとしている。

**【委員C】**

もう少し簡潔に文章を整理してもらいたい。

～確認事項に対する担当課からの回答～

委員からの意見を踏まえ、③について、「いただいた意見を踏まえ、指標の算出方法について、基準を「事業費」から「整備計画に基づく実施項目数」に変更し、本事業に実施すべき65項目（件）を母数として各年度の実施する項目数にて除した数値を目標値とするとともに、達成率を各年度の目標値に対する値に変更し他の事業と整合性を図り実態に即した数値とした。」という文章に修正する。

## 施策7 自衛隊との共存共栄によるまちづくり

**【アドバイザー】**

②の対応状況における各数字は、個人情報には当たらないと考えられ、「個人情報のため公表できない」といった書き方は望ましくないことから、「個人が特定される恐れがあるため」など、言

い回しを工夫した方が良いのではないかと。

**【事務局】**

担当課と調整する。

**【委員B】**

市民行政アセス追跡シートは、公表されるのか。

**【事務局】**

公表する。

**【委員B】**

追跡シートが公表されるのであれば、具体的な部隊名などを記載することも好ましくないのではないかと。市が主体となるような書き方とした方がよい。

**【アドバイザー】**

②の経済的な効果を捉える指標について検討中であれば、シンプルにその旨を記載するのもよいと考える。

～確認事項に対する担当課からの回答～

委員からの意見を踏まえ、②について、「経済的な効果を捉えた指標については、引き続き検討してまいります。」という文章に修正する。

### 施策8 自衛隊に対する市民理解の促進

**【委員C】**

「市民理解」の定義を明確化する必要がある。

**【アドバイザー】**

この施策を進めていくうえでは、そこを確立しないと何をゴールとするのか明確ではないという状況になってしまう。

今後、指標の見直しをしていかないと、向かう先がわからない施策になってしまう。

**【委員C】**

部隊行事の来場者数については、まず把握することから始めることも重要であるとする。

**【アドバイザー】**

自衛隊に協力してもらって来場者に対するアンケートをとることもできるのではないかと。

**【委員B】**

市と自衛隊との関係の数字がメインで、来場者等の数字が見えないので見えるようにといった意見だったと思う。対応状況のなかでそのような数を把握できると書かれているので、指標の見直し等について、前向きに検討していただければと思う。

～確認事項に対する担当課からの回答～

委員からの意見を踏まえ、②、③について「自衛隊部隊行事（創立記念行事、航空祭）の来場者数については、陸上自衛隊東千歳駐屯地、航空自衛隊千歳基地との協議により情報提供いただいた数値で千歳市内外トータルの来場者数を把握することはできますが、市民のみを把握することは困難であります。市民と自衛隊が連携している実態をより適切に測る指標については、引き続き、検討してまいります。」という文章に修正する。

### 施策9 低炭素社会の形成の推進

**【アドバイザー】**

電気自動車のメリットを伝えるのであれば、民間と連携したほうがよいのではないかと。

他の自治体における防災訓練では、北海道電力株式会社（ほくでん）が日産リーフを持ってきて給電のシステムを説明していたというのがあった。

**【事務局】**

今年の本市の総合防災訓練では、北海道から水素自動車、ほくでんから電気自動車を展示していただいたほか、消費者まつりでも、北海道と市、民間業者の車両を3台展示してPRしたと聞いている。

**【アドバイザー】**

市以外が主催となる事業などでもPRがなされているとすると、そこと連携することにより低炭素社会に繋がるというような形でも良いのではないかと。

低炭素と謳っていなくても、そこに繋がっていく取組がいろんな事業者で行われていることから、そういったところに目を向けて、あらゆる場面で啓発を行っているというように書いてもらえるとみんなで取り組んでいるという風に見せられるのではないかと。

**【事務局】**

そういった取組があれば、文章の中で例示するなど、回答内容について担当課と調整する。

**【委員A】**

③の「市民に対して電気自動車のメリットを伝える」といったワードはなくても良いのではないかと。

～確認事項に対する担当課からの回答～

委員からの意見を踏まえ、③について、「市民に対して電気自動車のメリットを伝える」を削除した文章に修正する。

**施策 10 中心市街地のにぎわい促進**

－意見なし－

～確認事項に対する担当課からの回答～

施策2「スポーツ施設の充実、活用」における委員からの意見を踏まえ、②⑤⑥について、「今年度」を「令和5年度」に修正する。

**議 題（2）令和6年度「市民行政アセス」について**

**【事務局】**

令和6年度の対象施策については、次期の市民評価会議委員で協議し選定することとなるが、来年度の施策選定の参考として、今年度委員の皆様からのアドバイスや、今年度市民評価会議に参加いただいた感想など頂戴できればと思う。

**【委員C】**

評価会議の最初の段階では、市民アンケートにおいて市民の皆さんの関心が高かった施策を選定したこと、また、教育委員会の施策を必ず入れるといったこともあり、施策に偏りが出てしまい、施策数のわりにあまり評価が進まず、目立たない施策が残ってしまった印象だった。そういった意味でなるべくバランスよく選定するようにしていただければと思う。また、似通った事業はあわせて評価することも良いと思う。

**【アドバイザー】**

第6期総合計画からの流れで評価が実施されていない施策があるかもしれないので、一度洗い出しをしたほうがよい。当初は市民アンケートで関心が高く、かつ、自主事業が多い施策を選定していたという経過があり、施策に相当の偏りがあったという経過がある。そういったところも来年度までに整理をして、次年度アセスを実施する施策の目星をつけていければ良いのではないかと。

基本目標	地の利と資源を生かした産業のまち		展開方針	色々な千歳を知り楽しむことができる、観光の振興に努めます。
施策番号	68	施策名	地域資源を生かしたツーリズムの創出、推進	
担当課	観光スポーツ部観光課	関係課	観光スポーツ部スポーツ振興課	

市民行政アセス(市民評価会議)	
総評	一次評価については、担当課とのヒアリングを通じて実施内容・評価内容を確認した結果、妥当であると判断する。
評価結果	理由及び意見
<b>維持</b> 拡充: 「事業内容を拡大・充実させる。」 維持: 「現在の水準を維持する。」 縮小: 「事業を縮小する。」	『理由』 ・多くの自治体が観光に力を入れており、地域間の競争も激しいと思われることから、今後も現状のとおり様々な観光事業の実施を通じて当市の振興を図ることは妥当と思われる。 ・新型コロナウイルス感染症の影響が緩和される中、地域資源を生かした新たなツーリズム、観光イベント、スポーツ等の創出が必要である。  『意見』 ①千歳市の新たな地域資源やツーリズムの創出に向け、地域の魅力の発見・発掘や価値の創出、更にはイベント等の一時的・一過性の事業ではなく、地産地消の推進のような持続可能な観光資源やツーリズムの創出を目指していただきたい。 ②指標で用いられている「観光入込客数」と「スポーツ合宿件数」は、本施策の推進状況を正しく判断できないため、たとえば観光消費額や体育施設の稼働率、実利用団体数など新たな指標を加える工夫が必要である。 ③合宿の誘致は市民からは馴染みが薄いため、交流などを通じた有意義な事業展開を図るべきである。 ④交通、自然環境、産業、スポーツ、歴史文化などを担う他分野の施策との連携を重視すべきである。 ⑤観光業界における人材不足や合宿する実業団等の多様なニーズへの対応など、本施策の推進に向けて状況に合わせた適切な取組が必要である。

担当課の対応状況
(意見に対する対応状況) ①本市では、少ない人数で高い経済効果をもたらすとともに環境に配慮する旅行形態の一つである「アドベンチャートラベル(AT)」に着目して受入環境の整備やツアー造成等を進めているところであり、ATをはじめとして、今後も本市の観光資源を生かした持続可能なツーリズムの創出・推進に努める。 ②「観光消費額」の推計に当たっては、国の共通基準により、「観光消費額単価」に「観光入込客数」を乗じて算出することとされており、「観光消費額」と「観光入込客数」は相関関係にある。「観光消費額単価」は調査コスト等の課題により数年おきに調査していることから、毎年効果測定に適した「観光入込客数」を引き続き指標とすることとし、今後の指標の在り方としては、「観光入込客数」を中心に捉えながら、「千歳市観光振興プラン」との連動も鑑み、より効果測定に適した指標となるよう適宜見直しを検討していく。 また、「スポーツ合宿件数」については、取組の方向として掲げる陸上合宿の利用件数を定量的にとらえることができる指標として採用しており、「体育施設の稼働率」は、他のスポーツ施設における稼働状況の影響も受けるなど、当市の取組方針と合致しない数値となることから採用することを検討していないが、「実利用団体数」については、補助的な指標として、適宜活用していく。 ③新型コロナ感染症が拡大する前は、アスリート交流事業として、陸上合宿で千歳に来ている実業団チームによる、市内小中学生に走り方やフォームを指導するランニング教室を実施したこともあり、今後においても、アスリートと市民との交流機会の創出を図り、スポーツ意欲の向上や、スポーツ振興に寄与する取組を推進していく。 ④交通インフラや自然環境、産業、スポーツ大会、縄文遺跡等との連携は観光にとって重要であると捉えており、他の分野と連携しながら取り組んでいく。 ⑤観光を取り巻く環境の大きな変化に柔軟に対応するものとして、令和4年度に「千歳市観光振興プラン」を策定しており、本プランに基づき、観光業界の人材不足や多様化するニーズへの対応等を含め、適切な対応に努める。合宿利用の実業団の多様なニーズにおいては、適宜、ヒアリングにより把握しており、必要とされるサポートや環境整備に努め、誘致活動の推進を行っている。
(評価を受けた感想) ・持続可能な観光の振興や他分野との連携など、市民の視点から今後の観光振興の方向性について意見をいただくことができ、貴重な機会となった。



基本目標	充実した学びと豊かな文化・スポーツのまち		展開方針	誰もがスポーツに親しめる生涯スポーツの普及に努めます。
施策番号	54	施策名	スポーツ施設の充実、活用	
担当課	観光スポーツ部スポーツ振興課	関係課	建設部都市整備課	

市民行政アセス(市民評価会議)	
総評	一次評価については、担当課とのヒアリングを通じて実施内容・評価内容を確認した結果、妥当であると判断する。
評価結果	理由及び意見
<b>維持</b>	<p>『理由』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>多くの市民が市内施設を利用しスポーツを楽しんでいることや、安定的な施設の維持管理を行っていることは評価できる。</li> <li>施設を利用する市民からの要望については危険度などを考慮し適正に修繕されていることが評価できる。</li> </ul> <p>『意見』</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>千歳市への流入人口の獲得を考慮した取組や若い市民の声を踏まえた取組を行うことが重要である。近年話題になっているボルダリングやスケートボードなどを含め、スポーツ振興と連動した施策の展開を行ってほしい。</li> <li>指標で用いている「スポーツ施設に関する利用満足度」の集計及び分析方法の検討を行う必要がある。(例:満足していない数値を指標にする)</li> <li>スポーツ施設の充実を行うには、未利用施設の廃止などスクラップアンドビルドの考え方が重要である。</li> <li>民地や民間所有の施設等を利用したスポーツ施設の拡充も検討してほしい。</li> </ol>
<p><b>拡充:</b> 「事業内容を拡大・充実させる。」</p> <p><b>維持:</b> 「現在の水準を維持する。」</p> <p><b>縮小:</b> 「事業を縮小する。」</p>	

担当課の対応状況
<p>(意見に対する対応状況)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>新たなスポーツ施設の整備については、市民や各競技団体からの要望等を踏まえ、財源や将来人口等も考慮しながら、中長期的な視点を持って対応を検討するなど、スポーツ振興と連動した施策の展開に努める。</li> <li>意見を踏まえ、より有効な指標となるよう利用満足度の分析方法の見直しを行う。また、「スポーツ施設に関する利用満足度」で「満足していない」と回答があったものについては、内容や状況を確認するなど、施設の適正管理を行う際の参考としている。</li> <li>令和5年度に、施設の老朽度合いや利用状況等を踏まえ、未利用であった庭球場2面を廃止予定であり、今後も、施設廃止後の活用方法等の課題を踏まえながら、適時適切に対応する。</li> <li>今後の施設整備の参考とする。</li> </ol> <p>(評価を受けた感想)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市民評価会議の意見から、今後の施設の充実、活用に向けたヒントを得ることができたところであり、引き続き、誰もがスポーツに親しめる生涯スポーツの普及に努めることとしたい。</li> </ul>

基本目標	あたたかさをつながりを感じられるまち		展開方針	障がいのある人が、安心して、自立した生活を送ることができる地域づくりを推進します。
施策番号	10	施策名	障がいのある人もない人も支え合う共生社会づくりの推進	
担当課	保健福祉部障がい者支援課	関係課	保健福祉部障がい者支援課	

市民行政アセス(市民評価会議)

総評	一次評価については、担当課とのヒアリングを通じて実施内容・評価内容を確認した結果、妥当であると判断する。	
評価結果	理由及び意見	
<b>維持</b>	<p>『理由』 ・障がいの有無に関係なく、障がい者への理解を促進するための啓発活動や障がい者への支援活動を継続することが重要である。</p> <p>『意見』 ①障がい者を取り巻く環境や利用可能な機器等の変化は著しく、それらの変化に対応した事業展開が求められる。 ②本施策は関係機関と協働した推進が重要であり、指標に用いられている市職員が講師となって開催する「障がいに関する講座等の受講者数」のみでは、施策の(障がい者理解の促進度等を測る)成果指標として不十分であるため、見直しが必要である。 ③一般就労している人が増加すれば、就労支援事業所の利用者数は少なくなっても良いはずであり、必ずしも利用率が高いことが社会的に良いこととは限らないため、利用率を減らすような指標とする考え方もある。福祉関係の施策は、実績が多くなれば評価に値するというものではないため、適宜見直しが必要である。 ④障がいや高齢の分野を超えた共生型事業の推進に向け、他課との連携を行ってほしい。</p>	
<p><b>拡充:</b> 「事業内容を拡大・充実させる。」</p> <p><b>維持:</b> 「現在の水準を維持する。」</p> <p><b>縮小:</b> 「事業を縮小する。」</p>		

担当課の対応状況

<p>(意見に対する対応状況)</p> <p>①デジタル障害者手帳「ミライロID」の導入やタブレット端末等を活用した遠隔手話サービスの利用促進のほか、日常生活用具給付事業における最新用具の調査を行うなど、障がいのある人を取り巻く環境や技術の変化に応じた事業の実施に努めている。</p> <p>②令和6年度から、成果指標を「障がいに関する講座等の受講者数」から「地域活動支援センターの利用者数」に改めることとした。市内2か所の地域活動支援センターでは、障がいのある人と社会や地域との交流促進を目的として、創作的活動や生産活動の機会を提供しているほか、地域活動支援センター強化事業においては、精神保健福祉士等の専門職員を配置し、相談支援や地域の社会基盤との連携強化、障がいに対する理解促進に係る普及啓発などを通じて、地域共生社会づくりの推進を図っている。</p> <p>③成果指標である「障がい者就労支援事業所の利用者数」について、これまでの実績の推移に合わせて、令和6年度から目標値を上方修正し、施策の適切な進捗管理に努めることとした。今後も事業の利用ニーズや効果、課題を適切に把握しながら、障がいのある人の就労支援を推進する。</p> <p>④行政の垣根を超えた包括的な支援体制(重層的支援体制)の整備に向けて、庁内意見交換会を開催し、課題の分析や共有を図るとともに、関係部署の連携を強化する取組を進めている。</p> <p>(評価を受けた感想) ・市民評価会議の意見によって、より適切に施策の進捗状況や効果を測るため、成果目標を見直すことができた。</p>
---

基本目標	あたたかさをつながりを感じられるまち	展開方針	障がいのある人が、安心して、自立した生活を送ることができる地域づくりを推進します。
施策番号	11	施策名	障がいのある人が安心して暮らせる地域での支援体制づくりの推進
担当課	保健福祉部障がい者支援課	関係課	市民環境部国保医療課、保健福祉部健康づくり課

市民行政アセス(市民評価会議)

総評	一次評価については、担当課とのヒアリングを通じて実施内容・評価内容を確認した結果、妥当であると判断する。		
評価結果	理由及び意見		
<b>維持</b>	<p>『理由』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>障がい者支援に関する各種事業は、今後もその重要性は変わらない。</li> <li>各種事業を幅広く実施し、障がい者の自立を支援していることは評価できる。</li> </ul> <p>『意見』</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>本施策は多岐にわたる事業で構成されているが、評価指標が2つしか設定しておらず施策全体の評価を行うことが困難である。</li> <li>本施策は、各種事業の実施により福祉事業所の数や質、体制を充実させることなどで障がいのある人が住み慣れた地域で安心して暮らせる地域づくりを目指すものであることから、それらを指標に設定することも検討して欲しい。</li> <li>転入者が多い地域性を鑑み、障がい者個々の特性に合わせた丁寧な情報提供や情報提供ツールの獲得を行うことが必要である。</li> <li>災害時における避難行動支援や要配慮者支援などについては、関係他課と調整し、速やかにその対応に努めて欲しい。</li> </ol>		
<p><b>拡充:</b> 「事業内容を拡大・充実させる。」</p> <p><b>維持:</b> 「現在の水準を維持する。」</p> <p><b>縮小:</b> 「事業を縮小する。」</p>			

担当課の対応状況

(意見に対する対応状況)

- 令和6年度から新たに「障がい福祉分野資格取得助成事業の利用件数」を成果指標として追加することとした。当該事業は、障がいのある人が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、障がい福祉分野の人材を育成し、各事業所の数や質、体制を充実させることを目的としている。
- 本市では、窓口対応や各種行事、印刷物等における合理的配慮の提供のほか、情報・意思疎通支援用具の給付などにより、障がいのある人の情報取得を支援している。  
さらに、障がい特性に応じたコミュニケーション手段の理解や利用の促進を図るため、現在、「(仮称)千歳市コミュニケーション条例」の制定を目指し、「千歳市障がい者地域自立支援協議会」の中に専門部会を立ち上げ、障がいのある人や意思疎通に配慮が必要な人との意見交換を重ねるとともに、障がい特性に応じた情報提供やツールの獲得など、条例に基づく具体的な施策展開に向けて調査研究を進めている。
- 災害時における他課との調整については、現在、福祉部門と危機管理部門において、意見交換会を開催し、福祉避難所の在り方など、災害時における避難行動支援や要配慮者支援について検討を進めている。

(評価を受けた感想)

・市民評価会議の意見によって、より適切に施策の進捗状況や効果を測るため、新たな成果目標を追加することができた。

基本目標	充実した学びと豊かな文化・スポーツのまち		展開方針	生き生きと学び育つことができる小中学校教育の充実に努めます。
施策番号	42	施策名	いじめ・不登校等の対策の推進	
担当課	教育部青少年課		関係課	

市民行政アセス(市民評価会議)	
総評	一次評価については、担当課とのヒアリングを通じて実施内容・評価内容を確認した結果、妥当であると判断する。
評価結果	理由及び意見
<b>維持</b>	<p>『理由』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>いじめ、不登校の発生状況や年度別の推移、小中学生の傾向の把握・分析を行ったうえで事業を展開していることは評価できる。</li> <li>いじめや不登校対策の推進は、未来を担う子どもたちの健全な育成を支えるためにはたいへん重要な取組であり、社会状況の変化に応じ、今後も本施策を継続して取り組む必要がある。</li> </ul> <p>『意見』</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>学校への復帰は不登校を解消する過程のひとつに過ぎず、その後の児童生徒の生活状況の把握や継続的な支援の構築が必要である。</li> <li>小中学校を卒業した後も必要に応じて支援を受けられる体制を構築することが重要である。</li> <li>「いじめアンケート調査」におけるいじめ認知件数を基に算出されている指標があるが、小学生と中学生、あるいは子どもの発達段階に応じ認知件数に違いがみられることから、指標の設定を工夫すべきである。</li> <li>いじめについては、学校組織内での対応を図るだけでなく、第三者機関(公益通報窓口)を設けるなど、事象の把握や通報・相談を受けやすくするなどの環境整備を検討してほしい。</li> </ol>
<p><b>拡充:</b> 「事業内容を拡大・充実させる。」</p> <p><b>維持:</b> 「現在の水準を維持する。」</p> <p><b>縮小:</b> 「事業を縮小する。」</p>	

担当課の対応状況
<p>(意見に対する対応状況)</p> <p>①児童生徒が学校復帰できた後にも、学校では、学級担任を中心に児童生徒の会話や様子に留意するほか、連絡帳、教育相談などの様々な機会をとらえて行動観察に努めており、その際には教職員間の連携を図り、組織的に動くよう留意することとしております。</p> <p>今後も必要に応じてスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーへの相談を継続するほか、必要な支援につなげるためにケース会議を開く等して、保護者や関係機関(児童相談所、警察、医療機関等)との連携を図ってまいります。</p> <p>②中学校卒業後においても、市による福祉サービスや家庭生活の問題に関する相談等の支援は利用可能であり、必要に応じて支援を受けられる体制となっております。</p> <p>なお、高校生の不登校に関する相談については、所管の北海道教育委員会が対応しております。</p> <p>また、厚生労働省委託の支援機関である地域若者サポートステーションでは、学校を離れた後のサポート体制として、就労支援や学習サポートなどを行っております。</p> <p>③いじめアンケート調査における児童生徒の「いじめ解消率」の指標は、いじめ認知件数のうち解消しているものの割合としております。この指標については、小学校と中学校、あるいは子どもの発達段階の違いに関わらず目標値100%を目指すべきものであることから、今後も小学校と中学校を分けず、全体の指標として取り組んでまいりたいと考えております。</p> <p>④いじめの悩みなどの通報・相談は、学校だけではなく市教育委員会においても受けつけておりますが、ほかにも北海道教育委員会のお悩みポストや子ども相談支援センター、文部科学省の24時間子供SOSダイヤル、法務省の子どもの人権110番、北海道警察の少年相談110番等の相談窓口で相談を受け付けております。</p> <p>(評価を受けた感想)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>いじめや不登校対策の推進が重要であることへのご理解と取組への評価をいただき、これまでの取組の継続とさらなる充実に向けた方向性を再確認することができた。</li> <li>市民評価会議でいただいた取組・支援の継続性や教育関係者以外の目線の必要性に関する意見について、再認識し、今後の取組に生かしていきたい。</li> </ul>

基本目標	災害や危険から暮らしを守るまち		展開方針	消防・救急体制の充実強化を図るとともに、火災予防を推進します。
施策番号	33	施策名	消防体制の充実強化	
担当課	消防本部総務課	関係課	消防本部警防課、消防署警備1・2課、消防署救急課	

市民行政アセス(市民評価会議)	
総評	一次評価については、担当課とのヒアリングを通じて実施内容・評価内容を確認した結果、妥当であると判断する。
評価結果	理由及び意見
<b>維持</b> 拡充: 「事業内容を拡大・充実させる。」 維持: 「現在の水準を維持する。」 縮小: 「事業を縮小する。」	『理由』 ・限られた予算の中で、人員や機材を計画的に整備し、消防体制を維持していることは評価できる。 ・隊員向けの施設整備や災害対応ドローン整備など、必要に応じた適切な事業展開が図られている。 ・消防通信指令業務の共同化は市民の安心の向上と通報者の利便性の向上につながる重要なものである。 『意見』 ①今後の市街地における人口増加などに伴う救急需要のさらなる増加に対応するため、従来の拠点施設を維持するだけでなく、移転や増設など適正な体制を構築するべきである。 ②社会的な背景等による人口動態や経済動向を踏まえ、人員及び機材を適正に配置することが重要である。 ③指標に用いられている「消防通信指令業務共同化の進捗率」は各年度における事業費を基準に算出されているものであり、施策の推進状況が捉えにくいことから、年度ごとに正しく数値化できる指標を設定することが必要である。

担当課の対応状況
(意見に対する対応状況) ①災害対策の活動拠点である消防総合庁舎大規模改修については、順調に進んでいる。 富丘出張所は、昭和45年12月の開設から53年が経過し、老朽化が著しいことから、移転を検討中である。 ②ラピダス社の進出や関連企業等の集積が進むことに合わせて、人口増加や人流・物流の活性化など、本市における消防需要は益々増加することが予測されます。このことから、国が示す「消防力の整備指針」の基準を踏まえ、本市の実情を勘案しながら消防力の整備を適切に図っていく。 ③いただいた意見を踏まえ、指標の算出方法について、基準を「事業費」から「整備計画に基づく実施項目数」に変更し、本事業に実施すべき65項目(件)を母数として各年度の実施する項目数にて除した数値を目標値とするとともに、達成率を各年度の目標値に対する値に変更し他の事業と整合性を図り実態に即した数値とした。 (評価を受けた感想) ・限られた予算の中で、人員や機材を計画的に整備し、消防体制を維持していることを評価され取組が適切であったと再確認することができた。今後も市民評価会議の意見を参考にしながら、消防体制の充実強化に努めたい。

基本目標	多彩な市民とオール千歳で挑戦するまち	展開方針	自衛隊とともに発展するまちづくりに努めます。
施策番号	95	施策名	自衛隊との共存共栄によるまちづくり
担当課	総務部危機管理課	関係課	

市民行政アセス(市民評価会議)	
総評	一次評価については、担当課とのヒアリングを通じて実施内容・評価内容を確認した結果、妥当であると判断する。
評価結果	理由及び意見
<b>維持</b>	<p>『理由』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自衛隊の体制維持につながる各事務事業はいずれも施策に直接つながる重要な事業であり、今後も継続した取組が必要である。</li> </ul> <p>『意見』</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>指標に用いられている「自衛隊員数」は国の安全保障に関する方針等により大きく影響を受けるものであり、また、各事務事業による成果を正しく測ることが難しいため、修正が必要である。</li> <li>本施策が目指す自衛隊との共存共栄によるまちづくりは、市と自衛隊及び自衛隊員の双方の活動によって成し遂げられるものであることから、千歳市民の自衛隊入隊人数、自衛隊員の定住世帯数、町内会や少年団などの参画人数、経済効果など日常的な市民とのかかわりやその成果、経済的な効果を捉える指標が必要である。</li> </ol>
<p><b>拡充:</b> 「事業内容を拡大・充実させる。」</p> <p><b>維持:</b> 「現在の水準を維持する。」</p> <p><b>縮小:</b> 「事業を縮小する。」</p>	

担当課の対応状況
<p>(意見に対する対応状況)</p> <p>① 「自衛隊隊員数」は国の安全保障に関する方針等により影響を受けることはありますが、毎年、要望活動を通して自衛隊の重要性を国に訴え続けた成果が、現在の隊員数となっていると考えます。ご意見のあった現在の指標の修正については、検討してまいります。</p> <p>②経済的な効果を捉えた指標については、引き続き検討してまいります。</p> <p>(評価を受けた感想) ・行政と別の視点から施策についてご意見をいただき、市民に理解してもらいやすい指標の設定の難しさをあらためて感じました。ご意見をいただき、誠にありがとうございました。</p>

基本目標	多彩な市民とオール千歳で挑戦するまち	展開方針	自衛隊とともに発展するまちづくりに努めます。
施策番号	96	施策名	自衛隊に対する市民理解の促進
担当課	総務部危機管理課	関係課	

市民行政アセス(市民評価会議)	
総評	一次評価については、担当課とのヒアリングを通じて実施内容・評価内容を確認した結果、妥当であると判断する。
評価結果	理由及び意見
<p><b>維持</b></p> <p>拡充： 「事業内容を拡大・充実させる。」 維持： 「現在の水準を維持する。」 縮小： 「事業を縮小する。」</p>	<p>『理由』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自衛隊との共存共栄によるまちづくりを目指す他施策の推進においても本施策は重要なものであり、今後も継続した取組が必要である。</li> <li>・ 前期計画では事務事業であったものが現計画では施策として位置づけられているが、本施策の事務事業の内容は他施策(自衛隊との共存共栄によるまちづくり)に含まれる内容として見受けられる。施策が目指すことを踏まえた工夫が必要である。</li> </ul> <p>『意見』</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 千歳市は転出入者が多い特性を持っているため、転入者をターゲットとした事業展開が重要である。</li> <li>② 千歳市に長く居住する住民にとっては無意識のまま自衛隊を受け入れている状態にある方も多いため、本施策が目指す「市民理解」の意味について明確にするべきである。</li> <li>③ 指標に用いられている「自衛隊に支援を受ける行事数」は、千歳市から協力要請をしているイベント数だけをカウントしており、市民と自衛隊が連携している実態が測られていない。自衛隊が行う行事等への市民の参加状況を把握することも重要である。</li> </ol>

担当課の対応状況
<p>(意見に対する対応状況)</p> <p>① 毎年自衛隊が一般開放している、創立記念行事、航空祭、音楽まつり等、千歳市に長く居住する住民にとって親しまれている行事も、転入したばかりの方に対して、より広報を行う必要があることから、引き続き、部隊広報等と連携を行ってまいります。</p> <p>②、③ 自衛隊部隊行事(創立記念行事、航空祭)の来場者数については、陸上自衛隊東千歳駐屯地、航空自衛隊千歳基地との協議により情報提供いただいた数値で千歳市内外トータルの来場者数を把握することはできますが、市民のみを把握することは困難であります。市民と自衛隊が連携している実態をより適切に測る指標については、引き続き、検討してまいります。</p> <p>(評価を受けた感想)</p> <p>・ 行政と別の視点から施策についてご意見をいただき、市民に理解してもらいやすい指標の設定の難しさをあらためて感じました。ご意見をいただき、誠にありがとうございました。</p>

基本目標	豊かな自然を育み快適で住みよいまち	展開方針	地球の環境を守る取組を推進します。
施策番号	22	施策名	低炭素社会の形成の推進
担当課	市民環境部環境課	関係課	

市民行政アセス(市民評価会議)	
総評	一次評価については、担当課とのヒアリングを通じて実施内容・評価内容を確認した結果、妥当であると判断する。
評価結果	理由及び意見
<p><b>拡 充</b></p> <p>拡充: 「事業内容を拡大・充実させる。」 維持: 「現在の水準を維持する。」 縮小: 「事業を縮小する。」</p>	<p>『理由』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>世界的な課題に対し、国が示した施策を推進するだけでなく、千歳市が主導する市・事業者・市民等の協働による具体的な事業展開を行うべきであり、今後、脱炭素社会の実現を目指すためには現在の取組を拡充する必要がある。</li> <li>施策を推進するうえで重要となるエビデンスが不足しており、低炭素化・脱炭素化の推移を測ることが困難な状況に見受けられる。本施策を展開するためにはエビデンスに基づく明確な目標設定が必要である。</li> </ul> <p>『意見』</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>本施策は市民や事業者とともに目指すべきものであることから、市民の意識変革や具体的な行動につながる事業展開を行うべきである。</li> <li>本施策は他施策や他課と連携した取組によって効果を増すものであり、庁舎内の連携体制の構築が重要である。</li> <li>クリーンエネルギー自動車導入事業は、走行時に温室効果ガスを排出しない電気自動車を公用車として1台購入する事業となっているが、今後の事業展開や事業の成果、市民への影響について捉えるべきである。</li> <li>「ECOちとせ」の推進に当たっては、市内の事業者において、既に本施策に関連するISOの取得を行っている事業者を把握するなど、ECOちとせの認定事業者となり得る事業者の母数の把握・設定を行うことが必要である。</li> <li>「ECOちとせ」認定事業者が横ばいであることについては、当該事業における市のホームページの更新が滞るなど普及啓発にも課題があるため、適切な普及啓発活動とさらなる工夫が必要である。</li> </ol>

担当課の対応状況
<p>(意見に対する対応状況)</p> <p>①商業・農業・工業関係者や学生等で構成する「ちとせゼロカーボンプロジェクトチーム」の中で今後の取組等を検討したほか、市内の小中学校でカーボンニュートラルに関する出前授業を市民協働事業として実施するなど、市民や事業者の皆さんとともに市民の意識改革につながる取組を実施した。</p> <p>②市長をはじめとした特別職等による「本部会議」で全体の方針決定等を行い、次長職による「検討会議」でより具体的な内容の検討、公共施設の脱炭素化に向けては企画部・総務部・建設部の課長職による会議体中で検討を行うなど、全庁的な体制を構築し、他課と連携した取組の推進や課題の検討などを行っている。</p> <p>③クリーンエネルギー自動車の導入については、公用車での拡大に向けて総務部と連携して検討を行っているほか、市内イベント等に参加し、市民に対して啓発活動を行った。</p> <p>④令和3年6月時点での市内全事業所数は、3,232件(令和5年度版要覧ちとせより)であり、市内事業所において、ISO14001の取得について会社の規模や人員等により取得が厳しい事業所を対象としてECOちとせの認定を行っております。よって、市内事業所のISO14001の取得件数の把握、ECOちとせの認定事業所の母数の把握については、事業所数も多いことから現状難しいと思われるが、母数の設定については、内容を含め検討を行っている。</p> <p>⑤令和4年2月7日に「千歳市ゼロカーボンシティ」を表明し、今後、より一層の市民、事業者、行政との連携が必要となることから、ECOちとせへの推進についても、ホームページなどにおいて、各企業に対し適切な周知・啓発に努めていく。</p> <p>(評価を受けた感想)</p> <p>市が主導する具体的な事業展開を行うべきといったご意見やエビデンスに関するご指摘をいただくなど、今後、施策を展開していくうえでの課題や方向性を確認することができ、非常に貴重な機会となった。</p>



基本目標	暮らしやすく便利な都市基盤があるまち	展開方針	住みよさにぎわいを生み出す市街地の形成に努めます。
施策番号	75	施策名	中心市街地のにぎわい促進
担当課	産業振興部商業労働課	関係課	建設部都市整備課

市民行政アセス(市民評価会議)	
総評	一次評価については、担当課とのヒアリングを通じて実施内容・評価内容を確認した結果、妥当であると判断する。
評価結果	理由及び意見
<p><b>維持</b></p> <p>拡充： 「事業内容を拡大・充実させる。」</p> <p>維持： 「現在の水準を維持する。」</p> <p>縮小： 「事業を縮小する。」</p>	<p>『理由』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>主体性の高い市民団体や機関と協働したエリアプラットフォームづくりと「ちとせ未来ビジョン」の策定など、新たな試みが展開されていることは評価できる。</li> <li>様々な社会実験やチャレンジを行ってきたが、今後はその成果を得る段階にあるため、これまでの取組を維持することが妥当である。</li> </ul> <p>『意見』</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①本施策は、中心市街地の機能が維持されるよう持続可能な取組とすべきであり、各事業の推進に当たっては経済的な成果を循環するような展開が必要である。</li> <li>②本施策は「市民や観光客などが集まり交流する」ことも含まれており、中心市街地に観光客を集客するための方法についても検討すべきである。</li> <li>③本施策が目指す「中心市街地のにぎわい」の達成に向けて、現在指標としている「中心市街地の歩行者通行量」(人々の行きかう状況)だけで達成度を測るのではなく、経済的な波及効果を測ることも重要であるため、適切な指標の設定が必要である。</li> <li>④「千歳市グリーンベルト周辺地域エリアマネジメント推進事業」は、民間が主体となって、まちづくりや地域経営(マネジメント)を積極的に行えるような事業展開が重要である。</li> <li>⑤グリーンベルトでの事業を集中させるだけでなく、中心市街地を構成する各区域についても、その実情に合わせた事業展開が必要である。</li> <li>⑥施策の推進に当たっては、関係課(LED街路灯であれば道路管理課や環境課、観光客であれば観光課など)と一丸となって取り組むことが必要である。</li> </ol>

担当課の対応状況
<p>(意見に対する対応状況)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①ちとせ未来ビジョンでは、民間主導によりまちづくりを進めるエリアマネジメント団体(まちづくり会社)の設立を描いており、まちづくり会社が設立された際には、事業展開で得た収益の一部を、エリアの活性化のために再投資していくことを想定しているため、経済とまちづくりの循環を持続的に生み出せるよう支援していく予定です。</li> <li>②ちとせ未来ビジョンで描く「拠点づくり」については、令和5年度進めている調査業務の中で、文化交流・産業振興・観光機能を主とした都市機能のさらなる集積を念頭に置きながら調査を進めておりますことから、引き続き観光客を集客するための方法について検討を進めてまいります。</li> <li>③適切な指標設定について引き続き検討を進めてまいります。</li> <li>④本事業は、ちとせ未来ビジョンの具現化に向けた調査委託業務であり、民間主導によりまちづくりを進めるエリアマネジメント団体(まちづくり会社)の体制や活動内容等について整理しております。</li> <li>⑤令和5年度実施している調査業務では、位置関係や規模感などで優位性の高い「グリーンベルト」を活性化の起爆剤としてまちの顔エリアの活性化を目指し、波及効果を生みながら中心市街地の活性化を目指すものであります。当該調査にあたっては、官民16団体で構成されるちとせエリアプラットフォームでの議論をもとに、まちの顔エリアの将来像を描いた「ちとせ未来ビジョン」の具現化を図るものでありますため、地域の実情に合わせた内容となっております。</li> <li>⑥令和5年度実施している調査業務においては、庁内横断的な議論を交わすため「千歳市エリアマネジメント推進本部会議」を立ち上げ、下部組織として、企画部企画課長、まちづくり推進課長、総務部財政課長、産業振興部商業労働課長、子ども福祉部子ども政策課長、観光スポーツ部観光課長、建設部道路管理課長、建築政策課長、事業庶務課長、都市整備課長を構成メンバーとする重点分野検討部会も立ち上げており、各課と連携しながら取組を進めております。</li> </ol> <p>(評価を受けた感想)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いただいたご意見については真摯に受け止め、今後の事業展開の参考とさせていただきます。</li> </ul>